FEATHER2005 V2
リファレンスマニュアル

canopus

F095504131

ご注意

(1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
(2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
(3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、当社までご連絡ください。
(4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
(5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
(6) 本製品付属のソフトウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアッセンブリを禁じます。
(7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
(8) Microsoft、Windows、Windows Media、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト・コーポレーションの商標または登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
(9) iEPGおよびiEPGロゴは、ソニー株式会社の商標です。
(10) DivXおよびDivX Proロゴは、アメリカ合衆国・その他諸国におけるDivXNetworks社の商標または登録商標です。

表記について

■ 本書はアプリケーションの設定方法について説明しています。
セットアップ手順は、別冊のセットアップマニュアルをご参照ください。
■ 本書はFEATHER2005 V2を使用する製品の共通マニュアルとなっています。製品によっては、仕様により搭載されていない機能があります。
■ 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。
■ 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
■ 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
■ 本書ではMicrosoft® Windows®XP、Windows Media VideoをWindows XP、WMVと表記します。
■ 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでにされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

個人情報の取扱いについて

当社では、原則として①ご記入いただいたお客様の個人情報は下記の目的以外では使用せず、②下記以外の目的で使用する場合は事前に当該サービス上にてお知らせいたします。当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはございません。

(1) ご利用の当社製品のサポートの実施
(2) 当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施
＊ 調査結果を当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがありますが、匿名性を確保した状態で提供いたします。
(3) 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認
(4) ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供
(5) 懸賞企画等で当選された方お客様への賞品の発送
＊ お客様の個人情報の取扱いに関するご意見、お問合せは、http://www.canopus.co.jp/info/ までご連絡ください。

サポートについて

● ご使用方法や、このマニュアルについて不明な点、疑問点などがございましたらカノープス株式会社テクニカルサポートまでお問合せください。

■ お問合せの前には必ず以下の内容をご準備の上、お問合せください

(1) ご使用になっておられるパソコンの名称型番
・メーカー製の場合→メーカー名と型番
・自作、オーダーメイドの場合→
マザーボード型番、CPU、チップセット、サウンドボード　、グラフィックボード
(2) オペレーティングシステム（Windows など）のバージョン
(3) ハードディスクの容量、メモリの容量
(4) 他に取り付けられている拡張ボードのメーカー名と製品名
(5) 周辺機器があればそのメーカー名と製品名
(6) 他に併用している当社製品があれば製品名とバージョン番号

■ Web からのお問合せ

・ よくあるお問合せ（http://www.canopus.co.jp/tech/faq/faq.htm）をまずご確認ください。
・ よくあるお問合せで対応策が見つからなかった場合、ご購入後のお問合せ（http://www.canopus.co.jp/tech/contact2.htm）をご覧ください。

■お電話でのお問合せ

テクニカルサポート
TEL.078-992-6830
(10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00)
※土、日、祝日および当社指定休日を除く

FEATHER2005 V2
リファレンスマニュアル
April 13, 2005

もくじ

第１章　準備

1-1　チャンネルを設定(登録)する …… 2
1-2　Windowsのログオンパスワードを設定する …… 6
1-3　CiRAgentの設定 …… 8

第２章　ライブラリの設定

2-1　MEDIA LIBRARYを使いこなす …… 12
MEDIA LIBRARYを操作する …… 12
■ファイルを追加登録する …… 12
■ファイルを分類する …… 13
■ファイルを削除する …… 14
■カテゴリを削除する …… 15
■監視フォルダを追加する …… 16
MEDIA LIBRARYについて …… 17
■[MEDIA LIBRARY]画面 …… 17
■ファイル上での右クリックメニュー …… 18
■ルートカテゴリにあるカテゴリ上での右クリックメニュー　19
■監視フォルダ上での右クリックメニュー …… 19
2-2　メディア管理ツールを使いこなす …… 20
メディア管理ツールを操作する …… 20
■ファイルを追加登録する …… 20
■ファイルを削除する …… 21
■ファイル情報を変更する …… 22
■ファイルを検索・追加する …… 23

メディア管理ツールについて ………………………………… 24
■[Photo/Musicメディア管理ツール]画面 ……………………… 24
■[画像のプロパティ]画面 ………………………………………… 25
■[曲のプロパティ]画面 …………………………………………… 25
■ファイル上での右クリックメニュー …………………………… 26
■[アルバム]カテゴリ(Photo)上での右クリックメニュー … 26
■[アルバム](Photo)上での右クリックメニュー …………… 26
■[プレイリスト]カテゴリ上での右クリックメニュー ……… 26
■[プレイリスト]上での右クリックメニュー ………………… 26

第3章　MPEGマッハサーチについて

3-1　MPEG情報ファイルとマッハサーチ ………………………… 28
MPEG情報ファイルを生成する ………………………………… 28
MPEG Information File Creatorについて ………………… 30
■[MPEG Information File Creator]画面 ……………………… 30

第4章　FEATHER2005 V2の設定

4-1　メニューリストから操作をする ………………………………… 32
視聴に関する操作をする ……………………………………… 33
録画・変換に関する操作をする ………………………………… 34
画面に関する操作をする ……………………………………… 35
設定を変更する …………………………………………………… 36
そのほかの項目について ……………………………………… 36
4-2　[FEATHER設定]画面から設定をする ………………………… 37
[FEATHER設定]画面について ………………………………… 37
設定項目について ………………………………………………… 39
画質の設定をする ………………………………………………… 40
■[ビデオ入力設定] ………………………………………………… 40
■[Sビデオ入力設定] ……………………………………………… 42
■[チューナー入力設定] …………………………………………… 43
■[PC画面出力] ……………………………………………………… 45
■[ファイル再生] …………………………………………………… 47
■[表示位置] ………………………………………………………… 48
保存先の設定をする ……………………………………………… 49
■[保存先] …………………………………………………………… 49

タイムシフトの設定をする …… 50
■[タイムシフト] …… 50
エンコードの設定をする …… 52
■[録画] …… 52
■[HW-MPEG設定(MTVX-WHF)] …… 53
■[HW-MPEG設定(MTVX、MTVX-HF)] …… 55
■[HW-MPEG設定(MTVX-USB)] …… 57
■[HW-MPEG設定(MTVX2005)] …… 59
■[SWエンコード設定] …… 61
■[SW-MPEG設定] …… 65
■[ビデオ] ー SW-MPEG設定の詳細 ー …… 67
■[オーディオ] ー SW-MPEG設定の詳細 ー …… 68
■[ファイル拡張子] …… 69
DVD再生の設定をする …… 70
■[DVD再生] …… 70
音量の設定をする …… 71
■[音量/ミュート] …… 71
そのほかの設定について …… 73
■[ファイル関連付け] …… 73
■[Photo印刷設定] …… 74
■[ネットワーク設定] …… 75
■[その他] …… 76

第5章 付録

5-1 各設定項目をもっと詳しく …… 78
■ビデオ …… 78
■オーディオ …… 79
5-2 索引 …… 81

第１章
準備

この章では、FEATHER2005 V2とMTVXシリーズを合わせてお使いの場合の準備（設定）について説明します。
リモート録画予約（携帯電話などからの録画予約）機能をお使いにならない場合は、CiRAgentの設定は必要ありません。

※本書に記載されている機能の中には、お使いの製品の機能（仕様）差によってオプションが必要な場合があります。

1-1 チャンネルを設定（登録）する

ここではFEATHER2005 V2のチャンネル設定について説明します。
FEATHER2005 V2の初回起動時に地域別のプリセットを利用するか、オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。

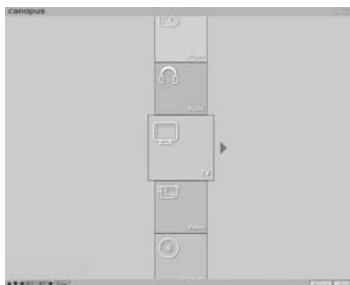
1

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]へ進み[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。

→ FEATHER2005 V2が起動します。

2

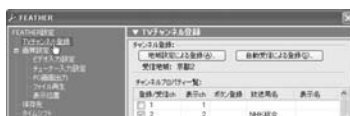
TVモードを選択し、画面上で右クリックします。

→ メニューが表示されます。

3

メニューから[設定]へ進み、[詳細設定を開く]を選択します。

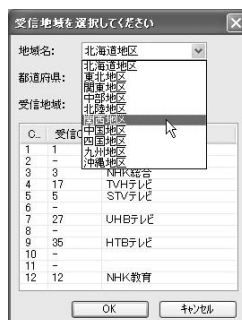
→ [FEATHER設定]画面が表示されます。

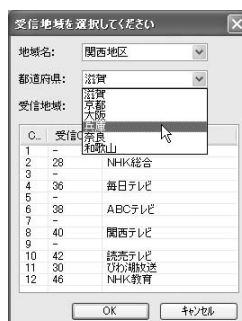
4

[TVチャンネル登録]をクリックします。

5

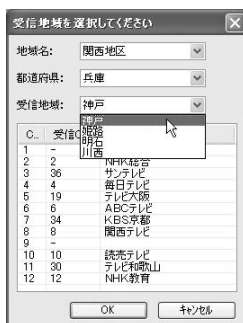
[地域設定による登録]ボタンをクリックします。

6

[地域名]から本製品を使用している地域名を選択します。

7

[都道府県]から都道府県名を選択します。

8 [受信地域]から受信地域を選択します。

→ [OK]ボタンをクリックし、受信地域の選択画面を閉じます。

もし、お住まいの地域名が見つからない場合や、受信地域番組リストの内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容の地域を選択してください。リストの内容は、後から修正できます。

9 放送局名を確認、および設定してください。

※ 受信チャンネル番号は、放送局からの電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで、新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号です。1〜12(VHF)と、13〜62(UHF)があります。

受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端に登録マーク(✔)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名や登録マーク(✔)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、オーバーレイウィンドウにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、登録と書かれたチェックボックスをクリックして登録マーク(✔)を表示させ、放送局名欄をクリックして放送局名を入力してください。

10 プリセットを確認および設定してください。

→ チャンネルプロパティ一覧のボタンに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てることで選局が簡単に行えます。

11

[数字ボタンの動作]の[ボタンに登録されたチャンネル]を選択します。
[OK]ボタンを押すと設定を完了し、画面が閉じます。

［ボタン登録されたチャンネル］とは、操作パネルの１〜０のボタンに任意に割り当てられたチャンネルを選択することをいいます。
［チャンネル数字入力］とは、放送局が使用しているチャンネルを選択することをいいます。
ケーブルテレビは、ケーブルテレビ局がチャンネルを割り当てています。

［自動受信による登録］ボタンをクリックすると、すべてのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、登録マーク（✔）が付きます。

1-2　Windowsのログオンパスワードを設定する

テレビ番組の予約録画を行う場合は、Windowsのログオンパスワードの設定が必要です（ログオンパスワードが未設定の場合のみ）。

1

［スタート］メニューから［コントロールパネル］へ進み、［ユーザーアカウント］をクリックします。

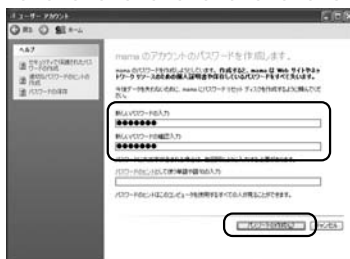
→［ユーザーアカウント］画面が表示されます。

2

ログオンパスワードを設定するユーザーアカウントをクリックします。

3

［パスワードを作成する］をクリックします。

4 画面の指示にしたがってパスワードを入力します。入力後は、[パスワードの作成]ボタンをクリックします。

5 [ユーザーアカウント]画面右上の[×]ボタンをクリックし、設定を終了します。

1-3 CiRAgentの設定

ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」を利用するための設定を例に説明します。
CiRAgentで「テレビ王国」を利用するには、次の設定が必要です。CiRAgentの設定以外は「テレビ王国」での設定となりますので、詳しくは「テレビ王国」のヘルプを参照してください。

- ・「テレビ王国」メンバーサービスの登録
- ・iCommand用結果通知メールアドレス登録
- ・CiRAgentのチャンネル設定、およびiCommand接続アカウント設定

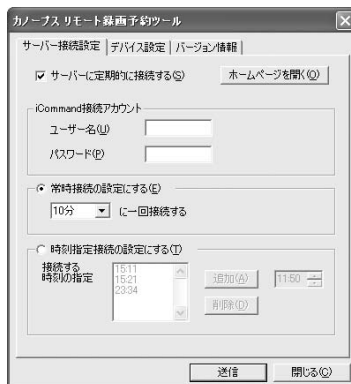
CiRAgentの設定変更には、管理者権限があるアカウントでログオンする必要があります。

1 ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］へ進み、［Canopus CiRAgent］から［Canopus CiRAgent設定］を選択します。

2 ［サーバ接続設定］タブをクリックし、以下の設定を行います。

① [サーバーに定期的に接続する]にチェックを入れます。

② [iCommand接続アカウント]に「テレビ王国」で登録したユーザー名(メンバーID)、パスワードを入力します。

③「テレビ王国」サーバへ常時接続するか、時刻を指定して接続するかを選択します。

3

［デバイス設定］タブをクリックし、［デバイス設定］ボタンをクリックします。

4

［FEATHERから取得］ボタンをクリックします。

→FEATHER2005 V2で設定した受信地域がCiRAgentにも設定されます。

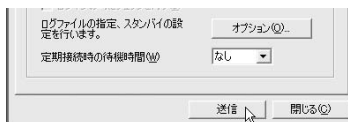
5

[OK]ボタンをクリックしたあと、[設定]画面の[OK]ボタンをクリックします。

6

［はい］ボタンをクリックします。

7

［送信］ボタンをクリックし、設定を終了します。

「テレビ王国」のユーザー名やパスワードを変更した場合、必ずCiRAgentのiCommand接続アカウントを再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。

第２章
ライブラリの設定

この章では、MEDIA LIBRARYとPhoto/Musicメディア管理ツールの設定と操作について説明します。
FEATHER2005 V2では、録画ファイルの管理はMEDIA LIBRARY、静止画ファイルと音楽ファイルの管理はPhoto/Musicメディア管理ツールで行っています。

2-1 MEDIA LIBRARYを使いこなす

MEDIA LIBRARYを操作する

FEATHER2005 V2で録画した映像は、マイビデオに保存されると同時に、自動的にMEDIA LIBRARYに登録されます。MEDIA LIBRARY上でファイルをカテゴリ別で分類しておけば、わざわざ探す手間がはぶけ、すぐに映像を見ることができます。
また、お気に入りのファイルを追加登録できますので、パソコンに取り込んだ映像や静止画像も一緒に整理できます。

■ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだビデオ映像などのファイルをMEDIA LIBRARYに登録します。

1 右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARYメンテナンスモード]を選びます。

2 [ファイルの追加]ボタンをクリックします。

3 追加登録するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがMEDIA LIBRARYに登録されます。追加したファイルのアイコンには「New」が表示されています。

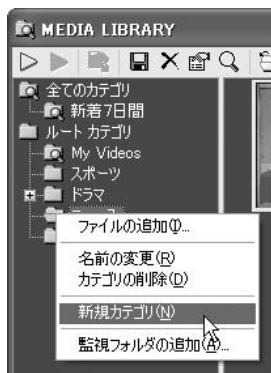
分類するルートカテゴリのカテゴリ(フォルダ)を選んでから追加登録すると、そのカテゴリ内にファイルを登録できます。

■ファイルを分類する

ルートカテゴリに新しくカテゴリを作成し、そのカテゴリにファイルを移動させます。

1 右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY メンテナンスモード]を選びます。

2 カテゴリを作成する階層より 1つ上のカテゴリ上で右クリックし、[新規カテゴリ]を選びます。

→ 選んだカテゴリ内に新しいカテゴリ（フォルダ）が作成されます。

3 カテゴリにお好みの名前を付けます。

4 登録するファイルを新しいカテゴリ上にドラッグします。

→ ファイルが新しいカテゴリ内に移動します。

2-1 MEDIA LIBRARYを使いこなす

■ファイルを削除する

1 右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY メンテナンスモード]を選びます。

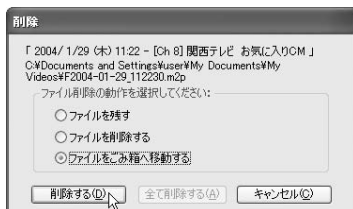
2 削除するファイルを選び、[削除]ボタンをクリックします。

3 オプションを選択し、[削除する]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルが削除されます。

[ファイルを残す]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

[ファイルをゴミ箱へ移動する]：
MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動します。

■カテゴリを削除する

ルートカテゴリ内にあるカテゴリを削除します。

［全てのカテゴリ］と［新着 7 日間］、［ルートカテゴリ］は削除できません。

カテゴリ内にファイルが登録されているときは、削除できません。

1 右クリックメニューから[設定] → [MEDIA LIBRARY メンテナンスモード]を選びます。

2 削除するカテゴリを選び、右クリックメニューから[カテゴリの削除]を選びます。

3 [はい]ボタンをクリックします。

→ 選んだカテゴリが削除されます。

■監視フォルダを追加する

Windows内にあるフォルダを監視フォルダとして登録しておくと、そのフォルダとサブフォルダ内のファイルをMEDIA LIBRARYへ表示させることができます。
直接、ファイルを監視フォルダへ追加（削除）した場合でも、自動的にMEDIA LIBRARYの表示に反映されます。
監視フォルダは、複数登録できます。

1. ルートカテゴリ内のカテゴリ上で右クリックし、［監視フォルダの追加］を選びます。

2. ［フォルダ参照］ボタンをクリックし、登録するフォルダを指定します。

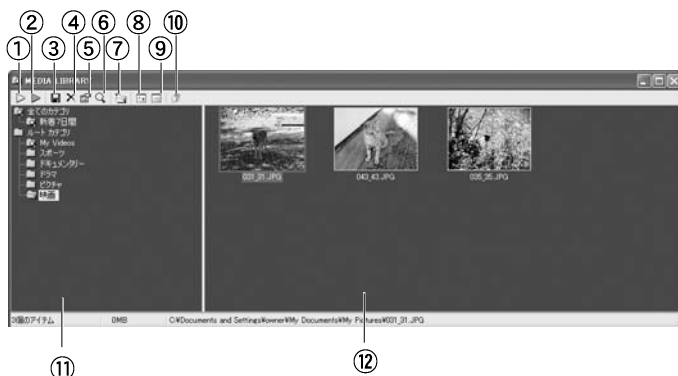
3. 監視するファイルの種類（拡張子）を入力し、［OK］ボタンをクリックします。

ルートカテゴリ内に登録したフォルダが表示されます。

監視フォルダ

MEDIA LIBRARYについて

MEDIA LIBRARYの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [MEDIA LIBRARY]画面

①[再生]ボタン
選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]ボタン
再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[別名で保存]ボタン
選んだファイルを別名で保存します。

④[削除]ボタン
選んだカテゴリ(ファイル)をMEDIA LIBRARYから削除します。

⑤[プロパティ]ボタン
選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑥[フォルダを開く]ボタン
ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、ファイルを保存しているフォルダを開きます。

⑦[ファイルの追加]ボタン
ファイルをMEDIA LIBRARYに追加登録します。

⑧[大きいアイコン]ボタン
ファイルリストの表示をサムネイル表示に切り替えます。

⑨[詳細]ボタン
ファイルリストの表示を詳細表示に切り替えます。

⑩[上へ]ボタン
選択したカテゴリの上の階層にあるカテゴリを選択します。

⑪カテゴリツリー

登録したカテゴリをツリー形式で表示します。

[すべてのカテゴリ]:
MEDIA LIBRARYに登録されているファイルをすべて表示します。

[新着7日間]:
録画日時が7日間以内のファイルをすべて表示します。フォルダ名や表示期間を変更するには、右クリックメニューから[プロパティ]を選択してください。

[ルートカテゴリ]:
お好みで複数のカテゴリを作成することができます。作成したカテゴリに任意で名前を付け、ファイルを分類・整理できます。

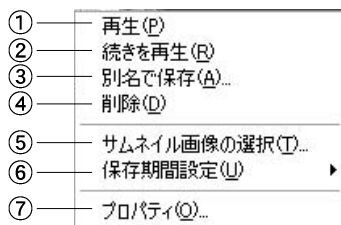
⑫ファイルリスト

選択したカテゴリに登録されているファイルを表示します。サムネイル表示と詳細表示をボタンで切り替えることができます。詳細表示時に表示されるアイコンの意味は次のとおりです。

:録画後まだ再生されていないファイルを示します。

:再生されたファイルを示します。

:登録後、ファイルの保存場所が変更になったりファイルが削除されたことを示します。

■ファイル上での右クリックメニュー

①[再生]

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]

再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[別名で保存]

選んだファイルを別名で保存します。

④[削除]

選んだカテゴリとファイルをMEDIA LIBRARYから削除します。

⑤[サムネイル画像の選択]

ファイルリストのサムネイル画像を、お好みの場面に変更することができます。

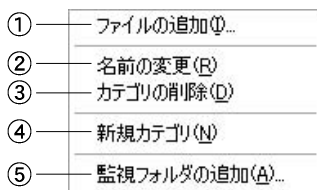
⑥[保存期間設定]

設定した保存期間を過ぎると、自動的にファイルを削除します。自動的にファイルを削除しない場合は[自動削除しない]を選択します。

⑦[プロパティ]

選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

■ルートカテゴリにあるカテゴリ上での右クリックメニュー

①ファイルの追加(I)...
②名前の変更(R)
③カテゴリの削除(D)
④新規カテゴリ(N)
⑤監視フォルダの追加(A)...

①[ファイルの追加]

選択したルートカテゴリ(またはカテゴリ)にファイルを追加します。

②[名前の変更]

選択したカテゴリの名前を変更します。

③[カテゴリの削除]

ルートカテゴリ内の選択したカテゴリを削除します。

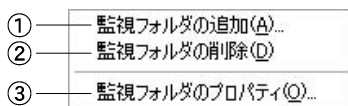
④[新規カテゴリ]

ルートカテゴリ内に新しいカテゴリを作成します。

⑤[監視フォルダの追加]

監視フォルダをルートカテゴリに追加登録します。

■監視フォルダ上での右クリックメニュー

①監視フォルダの追加(A)...
②監視フォルダの削除(D)
③監視フォルダのプロパティ(O)...

①[監視フォルダの追加]

[監視フォルダの追加]ウィンドウから監視するフォルダ、監視するファイルの拡張子を設定し、フォルダを追加します。

②[監視フォルダの削除]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダを削除します。

③[監視フォルダのプロパティ]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダのプロパティを表示します。

2-2 メディア管理ツールを使いこなす

メディア管理ツールを操作する

FEATHER2005 V2で取り込んだ曲や写真は、マイミュージックやマイピクチャに保存されると同時に、自動的にPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。Ｐｈｏｔｏ／Ｍｕｓｉｃメディア管理ツール上では、日時やアルバム、ジャンルなどFEATHER2005 V2で分類されている項目別にファイルを分類しています。
別フォルダに保管している写真や曲を登録してFEATHER2005 V2で再生したり、各ファイルの名前や日付などを変更することもできます。

■ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだ曲や写真などのファイルをPhoto/Musicメディア管理ツールに登録します。

1 右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード]を選びます。

2 [ファイルの追加]ボタンをクリックします。

3 追加登録するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

→ 選んだファイルがPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。

カテゴリは、追加・削除できません。

■ファイルを削除する

1 右クリックメニューから[設定]→[PHOTO/MUSICメンテナンスモード]を選びます。

2 削除するファイルを選び、[削除]ボタンをクリックします。

3 オプションを選択し、[削除する]ボタンをクリックします。

→選んだファイルが削除されます。

[ファイルを残す]：
Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]：
Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

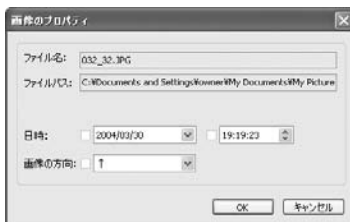
[ファイルをゴミ箱へ移動する]：
Photo/Musicメディア管理ツールへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動します。

■ファイル情報を変更する

1 右クリックメニューから[設定] →[PHOTO/MUSICメンテナンスモード]を選びます。

2 変更するファイルを選び、[プロパティ]ボタンをクリックします。

3 各情報を変更し、[OK]ボタンをクリックします。

→ ファイルの情報が変更されます。

<写真の場合>

プロパティ画面については、25ページを参照してください。

■ファイルを検索・追加する

1

右クリックメニューから[設定] → [PHOTO/MUSICメンテナンスモード]を選びます。

2

[検索・追加]ボタンをクリックします。

3

検索する場所を選択し、追加するファイルにチェックを入れた後、[検索を開始]ボタンをクリックします。

→ ファイルの検索が始まります。

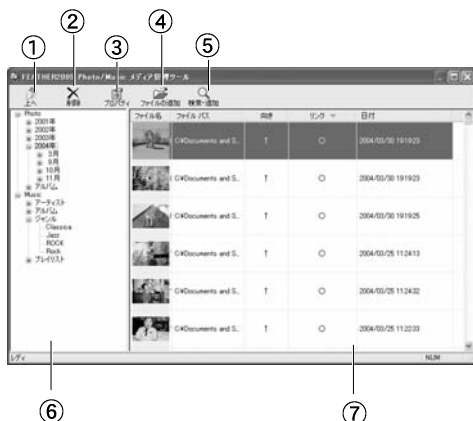
4

検索を完了すると右の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

→ 検索したファイルがPhoto/Musicメディア管理ツールに登録されます。

メディア管理ツールについて

ここでは、Photo/Musicメディア管理ツールの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [Photo/Musicメディア管理ツール]画面

①[上へ]ボタン
表示しているカテゴリの１つ上の階層にあるカテゴリを表示します。

②[削除]ボタン
選んだファイルを削除、または登録を解除します。

③[プロパティ]ボタン
選んだファイルの情報を表示します。プロパティでは、リンク先や曲名などの情報を変更できます。

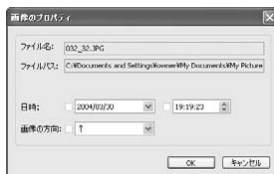
④[ファイルの追加]ボタン
任意の場所に保存されているファイルを、Photo/Musicメディア管理ツールに追加登録します。

⑤[検索・追加]ボタン
指定した場所を検索し、Photo/Musicメディア管理ツールにファイルを追加登録します。

⑥カテゴリツリー
PhotoモードおよびMusicモードのライブラリで表示されているカテゴリをツリー形式で表示します。

⑦ファイルリスト
選択したカテゴリに登録されているファイルとその情報を表示します。

「ライブラリ」とは、FEATHER2005 V2の各モードでファイルを選ぶ際に表示されるファイル群を意味します。

■[画像のプロパティ]画面

ファイル名：
ファイル名を表示します。

ファイルパス：
ファイルのリンク先を表示します。

日時：
静止画の撮影日時情報を表示/設定します。

画像の方向：
画像を表示する向きを表示/設定します。

■[曲のプロパティ]画面

タイトル：
タイトル名を表示します。
タイトル名を変更するには、直接タイトル名を入力します。

ファイルパス：
ファイルのリンク先を表示します。

トラック番号：
曲のトラック番号を表示します。

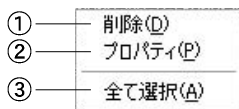
アーティスト：
アーティストカテゴリで表示される分類項目を表示します。

アルバム：
アルバムカテゴリで表示される分類項目を表示します。

ジャンル：
ジャンルカテゴリで表示される分類項目を表示します。

その他の情報：
曲に付随するその他の情報を表示します。

■ファイル上での右クリックメニュー

①――削除(D)
②――プロパティ(P)
③――全て選択(A)

①[削除]

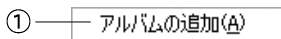
選んだファイルを削除、または登録を解除します。

②[プロパティ]

選んだファイルの情報を表示します。プロパティでは、リンク先や曲名などの情報を変更できます。

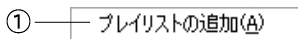
③[全て選択]

リストに表示されているファイルを、すべて選択します。

■[アルバム]カテゴリ（Photo）上での右クリックメニュー

①――アルバムの追加(A)

①[アルバムの追加]

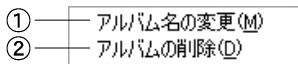
[アルバム]カテゴリにアルバムを追加します。

■[プレイリスト]カテゴリ上での右クリックメニュー

①――プレイリストの追加(A)

①[プレイリストの追加]

[プレイリスト]カテゴリにプレイリストを追加します。

■[アルバム]（Photo）上での右クリックメニュー

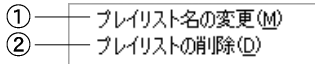
①――アルバム名の変更(M)
②――アルバムの削除(D)

①[アルバム名の変更]

アルバムの名称を変更します。

②[アルバムの削除]

選択したアルバムを削除します。

■[プレイリスト]上での右クリックメニュー

①――プレイリスト名の変更(M)
②――プレイリストの削除(D)

①[プレイリスト名の変更]

プレイリストの名称を変更します。

②[プレイリストの削除]

選択したプレイリストを削除します。

第3章
MPEGマッハサーチについて

この章では、MPEGマッハサーチについて説明します。MPEG情報生成ツールのインストール方法からMPEG情報ファイルの生成方法まで説明します。

3-1 MPEG情報ファイルとマッハサーチ

FEATHER2005 V2では、当社製品MTVXシリーズを使ってMPEGキャプチャを行った場合、自動的にGOP（グループオブピクチャ）情報をインデックス化した情報ファイル（*.imv、*.ima）を作成します。
MPEGファイルはIフレームをキーフレームとして圧縮をおこなっているため、特定のシーンにジャンプしたり、頭出しをおこなったりするときに、MPEGデータの読み出しに時間がかかってしまいます。FEATHER2005 V2ではカノープス独自の技術で作成したMPEG情報を利用し、MPEGデータの高速アクセス（マッハサーチ）を行うことができます。

MPEG情報ファイルを生成する

当社製品以外で作成されたMPEGファイルはMPEG情報生成ツールを使用して、情報ファイルを作成しておけば、FEATHER2005 V2で視聴するときに最高30倍速でシーンをサーチできます。特にVBR（可変ビットレート）のMPEGファイルでは高い効果を得ることができます。

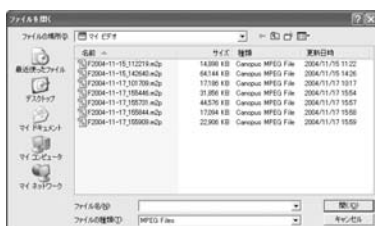
1 『FEATHER2005 V2』のCD-ROMをドライブにセットし、[TOOLS]フォルダをクリックします。
MPEG情報生成ツールは、このフォルダ内の[MPEGINFC]フォルダというフォルダの中にあります。

2 [MPEGINFC]フォルダを任意の場所にコピーします。これでMPEG情報生成ツールのインストールは完了です。

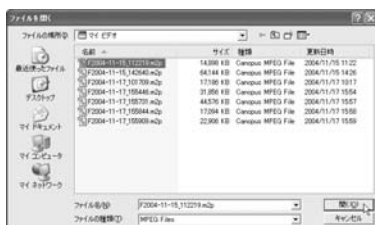
3 MPEG情報生成ツールを起動するには、[MPEGINFC]フォルダを開き、[MEPGINFC.exe]をダブルクリックします。
→[MPEG Information File Creator]ダイアログが表示されます。

4

[追加]ボタンをクリックします。

→[ファイルを開く]ダイアログが表示されます。

5

MPEG情報を生成するファイルを選び、[開く]ボタンをクリックします。

＊ 他にMPEG情報を生成するファイルがある場合は、4～5の操作を繰り返します。

6

必要な場合はオプションを設定し、[実行]ボタンをクリックします。

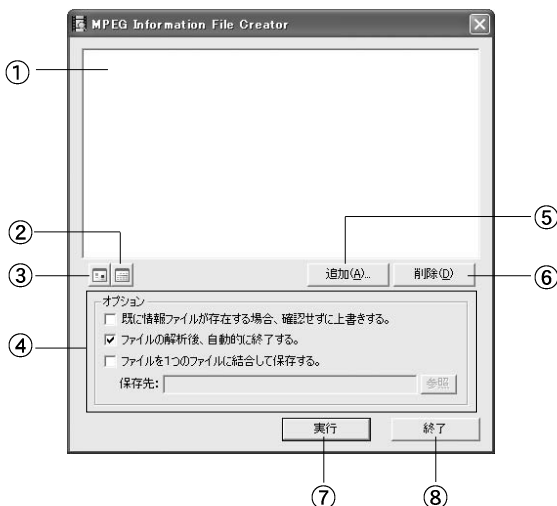
7

ファイルの生成が完了すると、右のようなメッセージが表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

＊ オプションで[ファイルの解析後、自動的に終了する]を選択している場合は、プログラムをそのまま終了します。

MPEG Information File Creatorについて

MPEG Information File Creatorの画面やボタンについて説明します。

■ [MPEG Information File Creator]画面

①ファイルリスト
選んだファイルがリスト表示されます。

②[詳細表示]ボタン
ファイルリストの表示を詳細表示に切替えます。

③[サムネール表示]ボタン
ファイルリストの表示をサムネール表示に切替えます。

④[オプション]
[ファイルを1つのファイルに結合して保存する]オプションを選ぶと、選んだすべてのMPEGファイルを結合して指定した場所に保存できます。ただし、ファイルは選んだ順番で結合されます。

⑤[追加]ボタン
選んだファイルをファイルリストに追加します。

⑥[削除]ボタン
ファイルリストから選んだファイルを削除します。

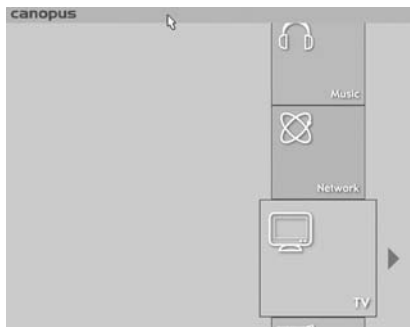
⑦[実行]ボタン
情報ファイルの生成を実行します。

⑧[終了]ボタン
プログラムを終了します。

第４章
FEATHER2005 V2の設定

この章では、FEATHER2005　V2で行う各種の設定項目について説明します。

4-1 メニューリストから操作をする

メニュー画面上で右クリックします。

設定を調節するメニューリストが表示されます。

本章では、当社チューナー製品（MTVX シリーズ）を使用し、チューナー入力を選択している場合で説明しています。
メニューリストは、ご使用のボードの種類や、入力元（[入力切替] を参照）により表示される項目は異なります。

視聴に関する操作をする

[チャンネル]

チャンネルを切り替えます。

[音声設定]

主音声、副音声、またはステレオ/モノラルを切り替えます。

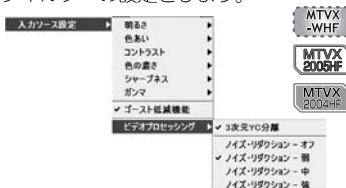
[入力切替]

入力元を切り替えます。

[入力ソース設定]

映像の調整、ゴースト低減機能の設定をします。
製品により設定できる項目は異なります。

[ビデオプロセッシング]

コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズフィルターの設定をします。

MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHFは、3次元YC分離と3次元ノイズリダクションを同時に機能させることができます。

録画・変換に関する操作をする

[外部入力の自動録画]

チェックを入れると、コンポジットまたはSビデオ信号を監視し、信号を検出すると録画を開始し、信号がなくなると録画を停止します。

[モード選択]

ハードウェアエンコードを行う場合は接続しているボード名を選択します(MPEGファイルを作成します)。ソフトウェアエンコードを行う場合は[ソフトウェアモード]を選択します。ただし、ソフトウェアモードでの使用はサポートの対象外となります。

＊ MTVX2004USB/MTVX2005USBはソフトウェアモードに対応しておりません。

[録画予約]

インターネット番組表の表示、録画予約の一覧、新規予約画面を表示します。

画面に関する操作をする

[モニター]

オーバーレイ表示を行います。

[PC画面設定]

パソコンの画面表示(明るさ、コントラスト、色の濃さ)を調整します。[▶]で初期値に戻ります。

＊ MTVX2004USB/MTVX2005USB/MTVX2005ではこの設定はできません。

[ウィンドウ]

表示する画面サイズを選択します。

[アスペクト比]

アスペクト比を設定します。

設定を変更する

[設定]：

[詳細設定を開く]

FEATHER設定画面を表示します(「4-2 [FEATHER設定]画面から設定をする」37ページ参照)。

[MEDIA LIBRARYメンテナンスモード]

MEDIA LIBRARYを起動します(「2-1 MEDIA LIBRARYを使いこなす」12ページ参照)。

[PHOTO/MUSICメンテナンスモード]

Photo/Musicメディア管理ツールを起動します(「2-2 メディア管理ツールを使いこなす」20ページ参照)。

[ファイル再生]

MEDIA LIBRARYに登録したファイルの再生方法を設定します。

[フルスクリーンモード]

チェックを外すと、旧バージョンのFEATHERで表示されるリモコン操作モードに変更します。チェックを入れると、従来の表示に戻ります。

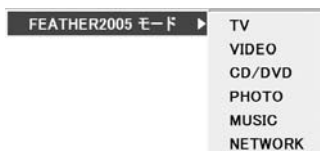
[メニュー表示モード]

メニュー表示方法を選択します。
テレビ表示(外部テレビ出力)付のグラフィックボードをお使いで、画面がちらつく場合は変更してください。

[メニュー表示エリア]

メニューの表示エリアを選択します。
[90%]を選択すると、各モードのメニュー表示や操作ボタンが10%内側に表示されます。

そのほかの項目について

[FEATHER2005モード]

FEATHER2005 V2のモードを切り替えます。

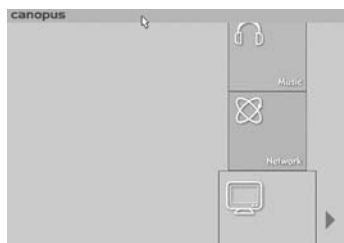
[FEATHERの終了]

FEATHER2005 V2を終了します。

4-2 [FEATHER設定]画面から設定をする

[FEATHER設定]画面について

FEATHER2005　V2に関するさまざまな設定を行います。

1 メニュー画面上で右クリックします。

2 メニューリストの[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。

3 左メニューで設定する項目名をクリックし、設定入力画面で設定をします。

左メニュー

設定項目を表示します。

設定入力画面

設定内容を表示します。

・左メニューの表示内容は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定により異なります。
・設定入力画面の設定は、パソコンに接続している当社製対応製品の種類や[モード選択]の設定([モード切替]ボタンの設定を含みます)により入力できない場合(グレーアウト表示)があります。

[モード切替]ボタン

HW(ハードウェア)モード／SW(ソフトウェア)モードを切り替えます(ただし、ソフトウェアモードでの使用はサポート対象外となります)。一度でもソフトウェアモード使用すると、ボタン名が[HWモード切替]または[SWモード切替]と表示されます。

※MTVX2004USB/MTVX2005USBでは機能しません。

[デフォルト]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、初期設定にします(ポイント参照)。

[元に戻す]ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、変更する直前の設定に戻します。

[OK]ボタンをクリックします。設定が変更されます。

Q　インストールした直後で、とくに設定はしていないのですが、テレビが白黒で表示されます。

A　不具合などがある場合、初期設定値がずれていることがあります。このような場合は初期設定値のセットをお試しください。

左メニューから各設定項目を選択し、[デフォルト]ボタンをクリックします。初期設定値がセットされます。

設定項目について

FEATHER2005 V2に関するさまざまな設定を行います。

①[FEATHER設定]

バージョン情報を表示します。

②[TVチャンネル登録]

テレビのチューニングを設定します。

③[画質設定]（40ページ参照）

入力元ごとに画質を設定します。
パソコンに接続している当社製対応製品により、設定内容は異なります。

④[保存先]（49ページ参照）

録画、静止画キャプチャファイルの保存先を設定します。

⑤[タイムシフト]（50ページ参照）

タイムシフトモード時の設定を行います。

⑥[録画]（52ページ参照）

エンコードの設定、ファイル拡張子の設定をします。
パソコンに接続している当社製対応製品により、設定内容は異なります。

⑦[DVD再生]（70ページ参照）

DVD再生の設定を行います。

⑧[音量／ミュート]（71ページ参照）

音量の調節、ミュート（消音）を行うデバイスを選択します。

⑨[ファイル関連付け]（73ページ参照）

FEATHER2005 V2と関連付けるファイルの拡張子を選択します。

⑩[Photo印刷設定]（74ページ参照）

Photoモードでの写真印刷の設定を行います。

⑪[ネットワーク設定]（75ページ参照）

接続できるパソコンを制限します。

⑫[その他]（76ページ参照）

スキップボタン設定、トラブルシューティングに関する設定を行います。

画質の設定をする

■[ビデオ入力設定]

[ビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

MTVX2004HF/MTVX2005HFの[ビデオ1入力設定]画面のみ表示

入力カラー調整：[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]、[ガンマ]

入力映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

入力ソース：MTVX 2004HF MTVX 2005HF

入力信号の種類を選びます。
コンポジットケーブルはコンポーネント接続用ケーブルの緑色の端子に接続してください。

ビデオプロセッシング：

コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。
MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHFのW3Dは、ここで設定できます。

パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」45ページを参照してください。

MTVX2004HFおよびMTVX2005HFの入力設定は、ビデオ入力ごとにそれぞれ設定できます。

■[Sビデオ入力設定]

MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHFをご使用の場合、この設定はできません。

[Sビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]

録画映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：

ノイズリダクションを設定します。

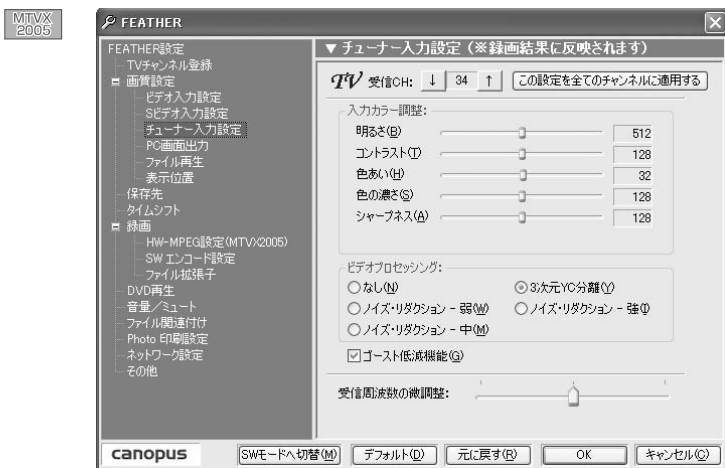
※MTVX2005は、ノイズリダクションを弱・中・強の３段階から設定できます。

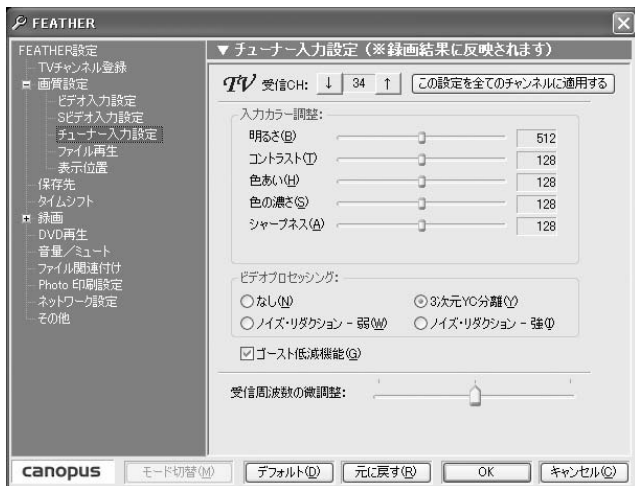
パソコン画面の表示（オーバーレイ）については「■[PC画面出力]」45ページを参照してください。

Q:Sビデオとコンポジット、どちらの入力を使えばいいですか？

A:ご使用のビデオデッキに高性能なY/C分離機能が搭載されている場合はSビデオ入力が効果的です。

■[チューナー入力設定]

[チューナー入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。

MTVX 2005

【その他の機種】

入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]、[ガンマ]

録画映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：

3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。

MTVX2004HF、MTVX2005HF、MTVX-WHFのW3Dは、ここで設定できます。

[ゴースト低減機能]

ゴーストリデューサーを設定します。

受信周波数の微調整：

受信周波数を微調整します。

受信状態を確認しながら、スライダを左右に移動させます。

※ 受信状態が悪い場合は、アンテナやアンテナ線との接続なども確認ください。

ゴースト低減機能

テレビ信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定(10Tap デジタルゴーストリデューサー)をすることで、ゴーストを低減します。

※ゴースト除去用の信号が正常に受信できない地域では効果が無い場合があります。

※10個以上のゴーストは原理的に低減できません。

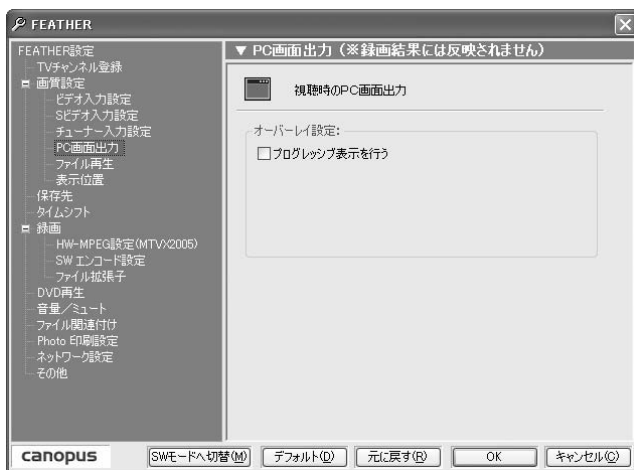
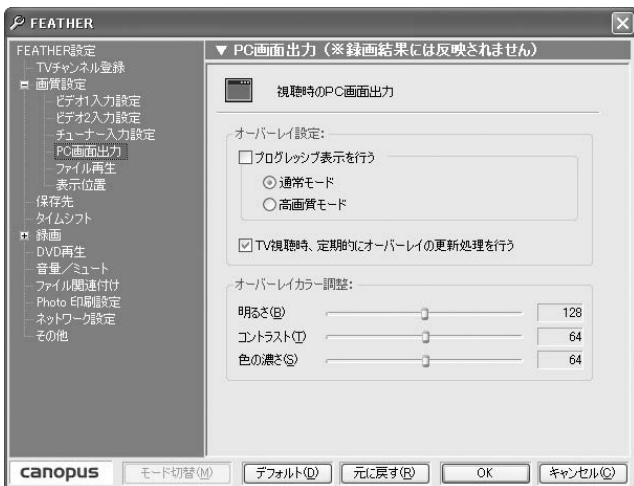
※ゴースト低減機能は、チャンネル選択後1秒〜2秒後に機能し、画像が安定するまで1分程度かかります。

パソコン画面の表示（オーバーレイ）については次項「■[PC画面出力]」を参照してください。

■[PC画面出力]

ソフトウェアモードの場合は表示されません。
MTVX2004USB/MTVX2005USBをご使用の場合、この設定はできません。

[PC画面出力]の設定は録画結果に反映されません。

MTVX 2005

【その他の機種】

オーバーレイ設定：

[プログレッシブ表示を行う]

プログレッシブ再生を行います。高画質モードで不具合が出たときは、通常モードに変更してください。

[TV視聴時、定期的にオーバーレイの更新処理を行う]

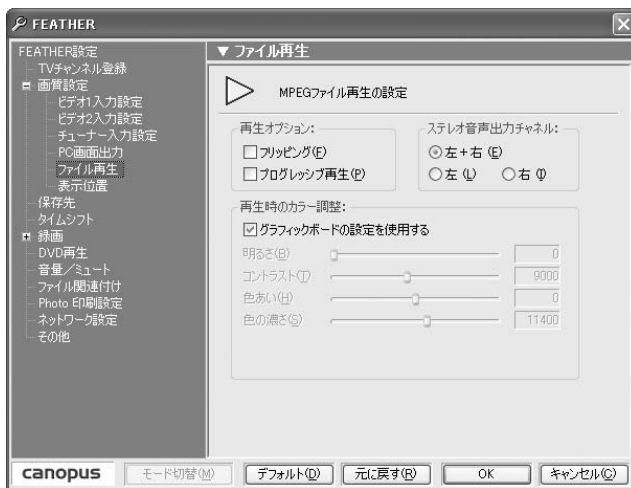
テレビ出力機能を持ったグラフィックボードをご使用の場合に、オーバーレイが更新されない現象が生じた時にこの設定をお試しください。ただし、更新を非同期で行うため、カクカクした動きになることがあります。

オーバーレイカラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色の濃さ]

スライダを左右に動かし、適切な表示状態になるように調整します。

■[ファイル再生]

ソフトウェアモードの場合は設定できません。

再生オプション：

[フリッピング]

ティアリング(動きのある部分が横線でずれて見える）が出る場合に設定します。

[プログレッシブ再生]

プログレッシブ再生を行います(ポイント参照)。

ステレオ音声出力チャネル：

音声出力を行うチャネルを設定します。

再生時のカラー調整：

[グラフィックボードの設定を使用する]

デフォルトで設定されています。チェックを外すとスライダで調整することができます。

プログレッシブ再生

偶数･奇数フィールドを個別に1/60秒間隔で更新し、フィールドを補間して表示を行います。非インタレース映像(例:MPEG1およびMPEG2のSIFサイズのもの)では機能しません。

■[表示位置]

無効領域幅の設定：
TV視聴時：、ファイル再生時：

無効領域の幅を設定(0～10%)します。
設定した無効領域幅は削除され、有効表示部分が拡大します。

保存先の設定をする

録画ファイル、静止画ファイルの保存先を設定します。

■[保存先]

録画：

録画ファイルの保存フォルダを設定します。

静止画キャプチャ：

静止画ファイルの保存フォルダを設定します。

[保存ファイル名]

ファイル名（自動生成されるファイル名の先頭に追加されます）を設定します。

[保存形式]

静止画ファイルの保存形式を設定します。

- [参照]ボタンをクリックし、[フォルダの参照]画面からフォルダを設定します。
- [保存先]に直接キーボードから入力することができます。

タイムシフトの設定をする

■[タイムシフト]

タイムシフトモード：

[標準モード]では、タイムシフトのためのバッファは、タイムシフトが終わると消去されます。また、タイムシフトが可能な時間は、[ディスク容量から自動計算する]、[指定する]のどちらかから選択します。
[録画モード]では、タイムシフトのために録画を行います。

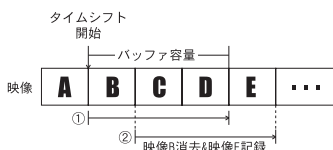
バッファを作成する場所：

タイムシフトのためのバッファデータを保存するフォルダを設定します。

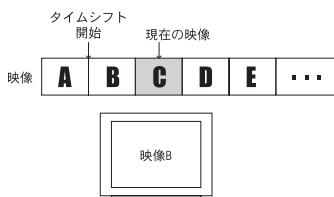
タイムシフトのしくみ

この機能には、タイムシフト中のみ映像の再生を行うことができる標準モードとタイムシフト終了後もMPEGファイルとして、映像を保存できる録画モードがあります。

標準モード

一定時間分のバッファで映像を記録していき、バッファ容量が限度にきたところで古い映像から消去を行い、新しい映像の記録を続けます。
バッファ容量内で記録されている映像は、その範囲内で自由に再生・巻戻し・早送り等することができます。バッファ時間は任意で設定することができます（49ページ参照）。
※標準モードでは、タイムシフトを終了すると記録したすべての映像が消去されます。

①で映像Bから映像Dまでのバッファ容量でタイムシフトを開始した場合、バッファ容量が映像Dの終りに達したところで映像Bが消去され、②その分のバッファで映像Eの記録を行います。

録画モード

タイムシフトされた映像がMPEGファイルとしてハードディスクに保存されます。タイムシフト終了後も映像を保存しておきたい場合に使用します。

通常の録画モードではスクリーン上に現在の映像が表示されますが、タイムシフトの録画モードでは、スクリーン上に表示される映像はハードディスクに既に記録された映像の再生となります。また、録画開始時に記録するファイル名を指定するのではなく、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。

ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録画データの設定を変更する必要があります。

エンコードの設定をする

■[録画]

[録画時間の制限]

録画時間の上限を設定します。

[録画中にはチャンネル切り替えを無効にする]

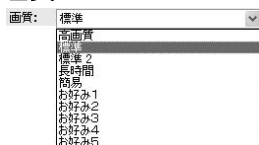
録画中の入力元、チャンネルの切り替えを禁止します。

[タイムシフト中にはチャンネル切り替えを無効にする]

タイムシフト中のチャンネル切り替えを禁止します。

■[HW-MPEG設定（MTVX-WHF）]

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」78ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、ビットレート8000kbps（VBR）で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、ビットレート5000kbps（VBR）で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、ビットレート4000kbps（VBR）で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、ビットレート3000kbps（VBR）で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート2000kbps（VBR）で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]
録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]
録画データに記録するアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[固定ビットレート]（CBR）
ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。
動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。
平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート]（VBR）
ビデオのデータ量が場面によって変動します。
ビットレートの最大値と平均値を指定します。

GOP：

[I frame]
すべてのフレームをIピクチャとして記録します。編集に向きます。

[IBBP]
一般的なMPEGの機能で録画データを記録します。編集には不向きです。

[Pピクチャ枚数]
ひとつのGOPに含まれるPフレームの数を設定します。

[周期]
ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。
Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。

[GOPオプション:Closed GOP]
通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

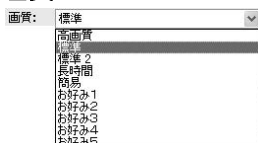
[形式]
圧縮形式を設定します。

[ビットレート]
ビット量を設定します。

録音レベル：
録音レベルを調整します。

GOPオプション
当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[HW-MPEG設定（MTVX、MTVX-HF）]
※MTVX2004/MTVX2004HF/MTVX2005HF

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」78ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps（VBR）で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9000kbps（VBR）で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、最大ビットレート8000kbps（VBR）で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、最大ビットレート6000kbps（VBR）で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート5000kbps（VBR）で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[固定ビットレート]（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。
動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。
平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート]（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。
ビットレートの最大値と平均値を指定するか、品質を指定します。

GOP：

[I frame]

すべてのフレームをIピクチャとして記録します。編集に向きます。

[IBBP]

一般的なMPEGの機能で録画データを記録します。編集には不向きです。
[ピクチャ枚数]
ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。
[周期]
ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。
Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。
[GOPオプション:Closed GOP]
通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

[形式]

圧縮形式を設定します。

[ビットレート]

ビット量を設定します。

[プリエンファシス]

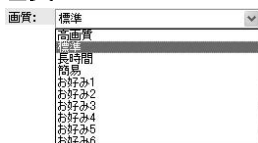
高音域を強調します。

録音レベル：

録音レベルを調整します。

GOPオプション
当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[HW-MPEG設定（MTVX-USB）]　※MTVX2004USB/MTVX2005USB

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」78ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps（VBR）で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps（VBR）で録画します。

[長時間]

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps（VBR）で録画します。

[簡易]

画像サイズ720×480、ビットレート4500kbps（VBR）で録画します。

[お好み1～6]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[固定ビットレート]（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。
動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。
平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート]（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。
ビットレートの最大値と平均値を設定します。

GOP：

[ピクチャ枚数]

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

[周期]

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。
Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。

[GOPオプション:Closed GOP]

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

[サンプリングレート]

サンプリングの周波数を設定します。

[ビットレート]

１秒あたりの音声データ量を設定します。

[チャネル]

音声の種類を設定します。

GOPオプション

当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[HW-MPEG設定(MTVX2005)]　※MTVX2005

MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」78ページを参照してください。

画質：

画質を選択します。

[高画質]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps(VBR)で録画します。

[標準]

画像サイズ720×480、最大ビットレート9000kbps(VBR)で録画します。

[標準2]

画像サイズ480×480、最大ビットレート8000kbps(VBR)で録画します。

[長時間]

画像サイズ352×480、最大ビットレート6000kbps(VBR)で録画します。

[簡易]

画像サイズ352×240、ビットレート5000kbps(VBR)で録画します。

[お好み1～5]

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[標準2]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

[画像サイズ]

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]

録画データに記録するアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[固定ビットレート]（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。
動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。
平均のビットレートを設定します。

[可変ビットレート]（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。
ビットレートの最大値と平均値を指定するか、品質を指定します。

GOP：

[自動]

最適な設定値を自動的に選択します。

[マニュアル]

ピクチャ枚数と周期の組み合わせを選択します。

[ピクチャ枚数]

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

[周期]

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。
Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「IBBPBBPB…」、周期2の場合は「IBPBPBPB…」とデータが並びます。

[GOPオプション:Closed GOP]

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

[ビットレート]

ビット量を設定します。

[チャネル]

音声の種類を設定します。

録音レベル：

録音レベルを調整します。

GOPオプション
当社製MpegCraftなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

■[SWエンコード設定]

MTVX2004USB/MTVX2005USBをご使用の場合は設定できません。
[ソフトウェアコーデック選択]ボタンをクリックし、使用に関する注意ダイアログに同意すると、各種の設定が行えるようになります。

・当社が各製品に付属して提供しているMPEGコーデック以外を使用した動作に関しては、サポート対象外となります。
・SWエンコードでのDivXによるキャプチャは、サポート対象外となります。

[設定登録]

SWエンコードの設定をプリセットとして登録します。

ビデオ設定：[ソース]、[ビデオサイズ]、[フレームレート]

映像の入力元、解像度、フレームレートを設定します。

[AVIコーデック]/[ソフトウェアMPEG]/[DivX(AVI)]

DivX(AVI)を選択し、[エンコード設定]ボタンをクリックすると詳細設定を行えます(「●エンコード設定」参照)。

オーディオをキャプチャする:[ソース]、[フォーマット]

オーディオをキャプチャします。
音声の入力元、音声フォーマットを設定します。

[AVIコーデック]/[ソフトウェアMPEG]/[MP3(AVI)]

オーディオのSWエンコード形式を設定します。

[録画中にビデオウィンドウを表示しない]

オーバーレイを非表示にし、CPUの負荷を軽減します。

[視聴時にダイレクトプレビューを使用する]

ダイレクトプレビューを使用し、CPUの負荷を軽減します。

●エンコード設定

ビデオのエンコード設定で「DivX(AVI)」を選び、[エンコード設定]をクリックすると、次のようなダイアログが表示されます。

※X Pack、X Pack2を使用している場合、またはDivXコーデックを使用している場合のみ表示されます。

※表示される画面は、DivXのバージョンによって異なります。

[General]タブ

Selected Profile

[Select Profile Wizard]で選択されたプロファイルが表示されます。
選択するプロファイルによって使用可能なビットレートの範囲が変わります。

Performance / Quality

変換速度と画質を設定します。スライダが右に行くほど、変換速度より画質が優先されます。

Bitrate

[Variable bitrate mode]
エンコード方式を設定します。
[Encoding bitrate]
動画のビットレートを設定します。
[Bitrate moduration]
ソースデータによってビットレートを調節することができます。
([Variable bitrate mode]でMultipass, nth passを選択した場合のみ設定できます。)

Multipass encoding files

「MV file」をチェックすると、映像の動きを記録し、マルチパスエンコード時に効率的に処理が行われます。
「1 st pass」時と「nth pass」時では処理が異なります。
※ リアルタイムキャプチャ時は、チェックを入れないでください。

[Select Profile]で[Disable Profile]にチェックを入れると、Bitrateで1-pass quality-basedが選択できるようになります。1-pass quality-basedではQuantizerで画質を設定します。

DivXで変換を行なう際、「Feedback Window」というウィンドウが連続で表示され、非常に負荷がかかる場合があります。
「Feedback Window」を非表示にするには、[Settings]ボタンで[Settings]ダイアログを表示させ、[Disable the feedback window]にチェックを入れてください。

[Video]タブ

Video Settings

[Psychovisual Enhancements]
ソースデータのエフェクトを補完する場合に、「Fast」または「Slow」から選択します。

[Enable Crop]
出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。

[Enable Resize]
元のソースデータから解像度、画質を変更して出力する場合に設定を行います。

Advanced

[Pre Processing Source]
チェックを入れると、スライダを移動させることによりソースデータのノイズやゴーストを前処理することができます。

[Scene change threshold]
キーフレームの挿入間隔をスライダの移動または数値を入力することにより指定します。

[Source Interlace]
ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。

[Max Keyframe interval]
キーフレームの間隔を入力します。

■[SW-MPEG設定]

MTVX2004USB/MTVX2005USBをご使用の場合は設定できません。ソフトウェアエンコーダ製品のみ以下の「MPEG」関係の設定画面が出てきます。

この項目は、[SWエンコード設定]の[ビデオ設定]で[ソフトウェアMPEG]を選択した場合に設定することができます。

録画デバイス：

現在選択されているデバイスを表示します。

ビデオ形式：

[MPEG1]

ビデオをMPEG1形式でエンコードしたい場合に選択します。

[MPEG2]

ビデオをMPEG2形式でエンコードしたい場合に選択します。

[Video CD]

ビデオCDを作成したい場合に選択します(MPEG1の中でも、特にビデオCDの規格に準拠した形式でエンコードします)。

[Super Video CD]

ビデオCDの上位互換機種として制定された規格です。再生可能なプレイヤーは限られています。

ストリーム：

[プログラムストリーム]

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して1つのファイルに記録します。

画質

[高画質2]

画像サイズ640×480、ビットレート5Mbpsで録画します。

[高画質1]

画像サイズ320x480、ビットレート4Mbpsで録画します。

[普通]

画像サイズ320x240、ビットレート3Mbpsで録画します。

[長時間]

画像サイズ320x240、ビットレート2Mbpsで録画します。

[マニュアル設定]

ビデオ、オーディオの設定をカスタマイズすることができます。[マニュアル設定]を選択すると、[詳細]ボタンをクリックすることが可能になり、[ビデオ]、[オーディオ]の設定画面で入力ができるようになります。

※MPEGに関する知識が必要です。通常は[高画質2]、[高画質1]、[普通]、[長時間]から選択してください。

[MTPlayer MP20-HDD/MultiRDVD/MultiRHDDでの再生時に問題が生じる場合、この項目をチェックしてください。]

FEATHER2005 V2で作成したファイルを当社製MTPlayerやMultiRシリーズで再生したときに、問題が生じた場合はチェックを入れてください。

■[ビデオ] ー SW-MPEG設定の詳細 ー

・この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
・[SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。

プロファイルとレベル：
MPEG2のプロファイルとレベルを設定します。通常は[MP@ML]選択します。

ビットレート：
ビデオデータのビット量を指定します。

GOPパターン：
一般的なMPEGの機能で録画する場合はIBBPを、すべての録画データのフレームをIピクチャとして記録する場合はI Frameを選択します。通常は、IBBPを選択します。

[動きベクター]
動きベクターを検出する範囲を指定します。大きな値を指定するほど、動きの激しいシーンでの品質が向上しますがCPUへの負荷が高くなります。

[フレームレート]
1秒間に描画するフレーム数を指定します。

[画像サイズ]
録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

[アスペクト比]
録画データに記録するアスペクト比を選択します。
映像のアスペクト比に合わせてください。

[スタンダード]
テレビ方式の設定です。
[NTSC]のみ選択できます。

■[オーディオ] − SW-MPEG設定の詳細 −

・ この項目は、[SW-MPEG設定]の[画質]で[マニュアル設定]を選択した場合に、設定することができます。
・ [SW-MPEG設定]の内容により、設定可能な項目が異なります。

音質：

[サンプリングレート]

32KHz、44.1kHz、48kHzから選択します。

[オーディオビットレート]

圧縮比率を設定します。

形式：

[Layer 2]

MPEGオーディオのレイヤー２規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

チャネル：

[ステレオ]

LチャネルとRチャネルの信号にある程度の相関がある場合に選択します。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合に選択します。

[ジョイント]

LチャネルとRチャネルの信号の相関が強い場合に選択します。

[デュアル]

LチャネルとRチャネルの信号に相関がほとんどない場合、各チャネルに全く異なる音を記録する場合などに選択します。

[モノラル]

1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

品質：

オーディオのエンコードにおける品質を指定します。高音質を指定するほどCPUへの負荷が高くなります。

■[ファイル拡張子]

MPEG1：

MPEG1のシステムストリーム、エレメンタリストリーム(ビデオ、オーディオ)の拡張子を設定します。

MPEG2：

MPEG2のプログラムストリーム、エレメンタリストリーム(ビデオ、オーディオ)の拡張子を設定します。

DVD再生の設定をする

■[DVD再生]

[DVDナビゲータ選択]

InterVideo DVDナビゲータ、Microsoft DVDナビゲータ、Nero DVDナビゲータから選択します。

※お使いの製品によって選択できる項目が異なります。

[DVDドライブ]

DVD再生時に優先的にDVDボリュームを検索するドライブを指定します。

[DVD Videoの自動再生を有効にする。]

DVDモードへの切り替え、またはFEATHER2005 V2本体のイジェクト/クローズボタンを使用した場合に自動的に再生を開始します。

音量の設定をする

■[音量／ミュート]

音量/ミュートを変更するコントロールを選択してください：

テレビ視聴時、ファイル再生/DVD再生時に、音量、ミュートの調節を行う入力ラインを選択します。

[TV視聴時]、[ファイル再生/DVD再生時]

ボリュームコントロール、WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。[ボリュームコントロール]を選択すると、すべての入力ラインに対して音の調節を行います。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[MTVX2004/MTVX-WHFのLINE OUT端子を接続しているコントロールを指定してください]

WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[MTVX2004HF/MTVX2005/MTVX2005HFのLINE OUT端子を接続しているコントロールを指定してください]

WAVE、SW シンセサイザ、CDプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話から選択します。

複数のボードを使用している場合は、ボードNo. を指定します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[デバイス使用時に音声がミュートされない場合はこちらを指定してください。]

Stereo Mix、CD Audio、Line In、Microphoneから選択します。

※ お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

LINE OUT端子に接続しているコントロールを指定していないと、テレビ視聴時に音声が聞こえない、またはパソコン側で音量の調節ができなくなります。

そのほかの設定について

■[ファイル関連付け]

[FEATHERと関連付けるファイルの拡張子を選択してください。]

FEATHER2005 V2と関連付けるファイルの拡張子を選択します。

MTVXシリーズのCGMS-A対応モデルで、BS/地上デジタル放送などの「一度だけ録画可能」なコピー制御信号（コピーワンス信号）付きの番組を録画した場合、FEATHER2005 V2は拡張子「m2d」が付いた録画ファイルを作成します。

このm2dファイルには、次の制限があります。

・m2dファイルを他のハードディスクへ移動させたりDVDなどのメディアへ記録した場合でも、録画したパソコン（システム）にインストールされたFEATHER2005 V2以外で再生できません。

・当社製X-TransCoderでのファイル形式の変換はできません。

なお、ソフトウェアモードではコピーワンス信号付きの番組を録画できません。

■[Photo印刷設定]

使用するプリンタ：

[プリンタ]

静止画の印刷に使用するプリンタを選択します。プリンタの設定を変更するには[プロパティ]ボタンをクリックします。

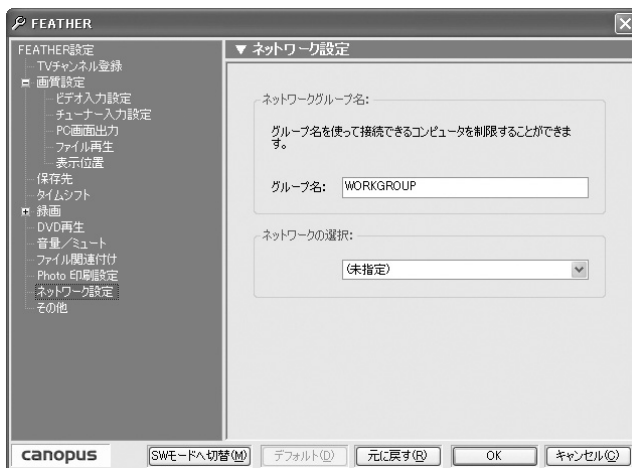
印刷レイアウト：

[余白を最小にする]

用紙の余白が最小になるように、画像を拡大して印刷します。画像サイズの比率によって、上下または左右が一部印刷されないことがあります。

[画像全体を用紙に収める]

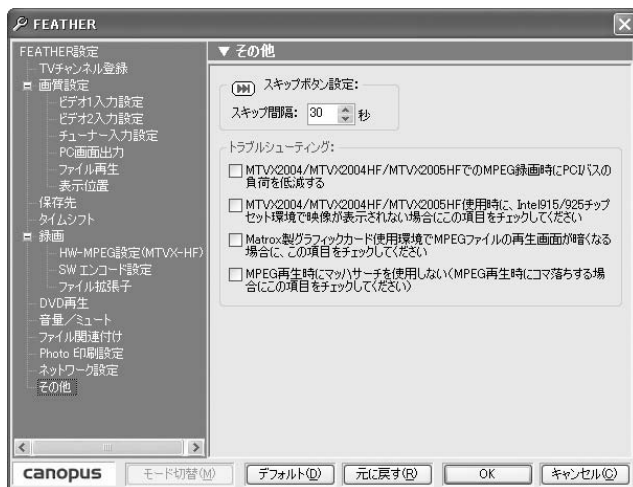
静止画全体が用紙に収まるように、画像を拡大して印刷します。

■[ネットワーク設定]

ネットワークグループ名：

ネットワークを構成するグループのグループ名を入力します。異なるグループに属するパソコンは、ネットワークサーバー選択画面に表示されません。

ネットワークの選択：

LANカードが複数ある場合、使用するLANカードを選択します。

■[その他]

[スキップボタン設定]

タイムシフト、追っかけ再生、ファイル再生時のスキップ間隔を設定します。

[トラブルシューティング]

必要に応じてチェックしてください。

[MTVX2004/MTVX2004HF/MTVX2005HFでのMPEG録画時にPCIバスの負荷を低減する]にチェックを入れると、MPEGデータの転送を優先するため、録画時の表示解像度が小さくなります。

第 5 章
付録

5-1 各設定項目をもっと詳しく

■ビデオ

マニュアル設定時のビデオの各項目の詳細内容について説明します。

ビデオビットレート

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、１秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、８で割ってください。例えば8,000,000bps(＝8Mbps)と指定すると、1秒あたり８Mビット、すなわち１Mバイトですから、１分間の録画には１Mバイト×６０秒＝６０Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります(オーディオも同時に記録する場合は、そのデータ量も加算する必要があります)。
データ量と画質のバランスから、適切であろうと考えられるおおよその目安は、以下の通りです。

●画像サイズが720×480の場合

6～12Mbpsが適切です。4Mbpsでは少し画質が悪いと感じられ、8Mbps以上にしても、画質にそれほど大きな変化はありません。15MbpsがMPEG2(MP@ML)の規格上の上限値です。

●画像サイズが352×480の場合

３～4Mbpsが適切です。
さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、720×480を使用してください。

●画像サイズが352×240の場合

MPEG2をこの画像サイズで使用する場合は、２～3Mbpsくらいが適切です。さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、352×480を使用してください。

ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

固定ビットレート、可変ビットレート

固定ビットレート(CBR)はビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます(CBR:Constant Bit Rate)。
可変ビットレート(VBR)はビデオのデータ量が変動します(VBR:Variable Bit Rate)。
MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮しにくい、という性質があります。固定ビットレートでは、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮しようとするので、そのような場面の画質が他の場面に比べて低下します。可変ビットレートはそれを緩和するため、そのような場面では圧縮結果のデータ量が平均より多くなるようにし、その代わりに他の場面でのデータ量を平均より少なくすることで、トータルのデータ量を増やさずに、各場面の画質をできるだけ均一に保つように考えられた方式です。
そのために可変ビットレートの場合は、ビットレート(目標とする平均のビットレート)と、最大ビットレート(データ量が多くなった部分でも、これを越えない上限値)の2つを設定できるようになっています。

ご使用の製品によって、ビットレートの設定項目は異なります。

GOPパターン(IBBP、I Frame)

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。
MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、すべてのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。したがって、それまでの画像がなければ、次の画像を構成することができません。
ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくても、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これを Iピクチャと呼びます。
これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。
また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。

IBBPを選択すると、上記のしくみを利用して、データ量を少なくしつつ、画質を保つようにします。通常MPEGは、この方式で記録されてます。通常は、IBBPを選択してください。
ただし、IBBPは、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。
I frameは、すべてのフレームをIピクチャとして記録します(I frame only)ので、編集が容易にできます。I frame only のMPEGファイルを編集できるソフトウェアをご使用になる場合は、I frameを選択してください。
ただし、I frameは、同程度の画質を維持するためにはIBBPに比べてデータ量を大きくすることが必要になります。
I frameを選択すると、最大ビットレートは25Mbpsまで設定できます。

GOPオプション

Closed GOP

Iピクチャ以外の各ピクチャは、時間的に前後のピクチャの内容も利用して圧縮を行います(GOPパターンの項参照)。したがって、編集のために、圧縮データを途中で切り離して他の部分のデータに接続することができません。この事は、GOPの境界部分についても同じです。GOPの先頭はIピクチャですが、その後のPピクチャとの間にあるBピクチャは、通常はそのGOPの一つ前の最終のPピクチャを参照します。
Closed GOPにチェックすると、そのような場合、Bピクチャは前方に対する参照を行わないようになります。すなわち、GOP内で情報が完結することになり、GOPの境界でデータを切り離しても、原理上、映像の再現は可能になります。ただし、圧縮効率は低下します。
通常は、チェックマークを外してご使用してください。
Closed GOP構造のMPEGファイルをGOP単位で編集ができるようなソフトウェアをご使用になる場合に使用してください。

画像サイズ

ビデオをエンコードする際の１画面を構成するピクセル数です。
720×480は、フルサイズです。
704×480は、民生用プレイヤーで使用されているサイズです。
352×480は、一般にHalf-D1と呼ばれているピクセルサイズです。
352×240は、一般にSIFと呼ばれているピクセルサイズです。

ご使用の製品によって、選択できる画像サイズが異なります。

■オーディオ

マニュアル設定時のオーディオの各項目の詳細内容について説明します。

サンプリングレート

オーディオ信号の標本化周波数を指定します。44.1kHz(44100Hz)、48kHz(48000Hz)から選択できます。44.1kHzはオーディオCDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。ビデオがMPEG2の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。

ビットレート（オーディオ）

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。
音質とデータ量の兼ね合いから、通常MTVX2004USB/MTVX2005USBの場合は192、224、256のいずれか、それ以外の場合は256、384のいずれかを選択してください。

形式

MPEG1 Layer-2

MPEGオーディオのレイヤ2規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。

Linear PCM

非圧縮のリニアPCMデータを2チャネル記録します。

チャネル

ステレオ

LチャネルとRチャネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。
通常の音楽などの信号は、LチャネルとRチャネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

デュアル

LチャネルとRチャネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャネルに全く別の音を記録する場合などにご使用ください。

モノラル

1チャネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

5-2 索引

C

CiRAgent 8

D

DVD再生の設定 70

F

FEATHER設定 31

M

MEDIA LIBRARY 12
MPEG Information File Creator 30
MPEG情報ファイル 28
MPEGマッハサーチ 28

P

PC画面設定 35, 45
Photo印刷設定 71

W

W3D設定 33, 41, 44

エ

エンコード設定（DivX） 62
エンコードの設定 52

オ

オーバーレイカラー調整（PC画面出力） 45
音声設定 33
音量の設定 71

カ

外部入力の自動録画 34
画面サイズ（ウィンドウ） 35
監視フォルダ 16

コ

ゴースト低減機能 44
コピーワンス信号 73

シ

受信周波数の微調整 44

ス

スキップボタン設定 76

タ

タイムシフトのしくみ 51
タイムシフトの設定 50

チ

チャンネル 33
チャンネル設定（FEATHER） 2
チャンネル設定（CiRAgent） 8

ト

トラブルシューティング 76

ニ

入力カラー調整（Sビデオ） 42
入力カラー調整（チューナー） 44
入力カラー調整（ビデオ） 41
入力切替 33

ネ

ネットワーク設定 75

ハ

バージョン情報 39

ヒ

ビデオプロセッシング 33
表示位置 48
標準モード（タイムシフト） 51

フ

ファイル拡張子 73
ファイル関連付け 73
ファイル再生 36, 47
プリエンファシス 56
フリッピング 47
プログレッシブ再生 47

ホ

保存先の設定 49

メ

メディア管理ツール 20
メニューリスト 32

モ

モード選択 34
モニター 35

ロ

録画モード （タイムシフト） 51